

床下すっぴり ミニ洞窟出現

世界中の洞窟の探検を続けている教授が、それだけでは飽きたらずに自宅の床下に洞窟をイメージした展示室を作った。大人ひとりがすっぽりと入る四角い空間に、各地で集めた珍しい溶岩サンプルが並ぶ。教授はひんやりとした床に横たわり、「現地に行かなくても洞窟の気分が味わえる」と満足そうだ。

西淀川の澤教授宅

展示室を作ったのは、西淀川区に住む大阪経済法科大教授、澤勲さん(67)。ハンタわきの机をすらすらと、足元に深さ約1.4m、幅約1.4mの空間が出現する。9月に完成したばかり。10ヶ月前後の色とりどりの溶岩約80個が飾ってある。

現地にいかずとも探検気分満喫

澤さんは子どものころに洞窟を歩き、魅力に取りつかれた。「静かな暗闇の世界。中はひんやりとして、頭がさえる。あの感覚は他では味わえない」
本来は半導体やコンピュータの研究だった

世界の溶岩に囲まれ、光景連想



溶岩のサンプルに囲まれて満足そうな澤勲教授＝西淀川区で

が、15年ほど前から国内のほか米国、中国などの洞窟を訪れはじめた。澤さんは展示室を「ミニ洞窟」と呼ぶ。実際に洞窟を訪ねるのは大変だが、ここにいれば洞窟の光景が目に見えよう。
「世界の溶岩を集め、洞窟好きの人から『あちこち行かんと、澤の家に行け』と言われるような場所にした」
大学では講義「洞窟の自然と人間」を担当し、学生に魅力を伝えている。連絡はファクスで澤さん(06・6471・6686)へ。